

小中学生による復興への取組み発表

- 「手作り地域防災マップ」～智頭町・山郷の防災を考える～

智頭町立山郷小学校

- 「体育館が新しくなったよ！」～地震からのこの1年～

溝口町立日光小学校添谷分校

- 「ボランティア活動を通じて学んだこと」

日野町立日野中学校

●「手作り地域防災マップ」～智頭町・山郷の防災を考える～

【発表】 智頭町立山郷小学校（4年生）

前田典子、藤原佳奈、玉木陽子、小林 楓、
青木和也、大藤絵梨奈、藤原淳人



ぼくたちは、山郷小学校の4年生です。山郷小学校は、八頭郡智頭町にあります。智頭町は、昔から美しい智頭杉で有名な林業の町です。ぼくたちの学校のまわりには、見わたすかぎり、美しい緑の杉林が広がっています。

去年の10月、大きな地震がありました。山郷小学校も、大きくゆれました。とてもこわかったです。山郷小学校はすぐ裏まで山がせまっています。学校の裏の山には、大きな石があります。あんなものが落ちてきたら、あぶないなあ、と心配になりました。それで、学校の裏にいきました。

学校の裏には、大きなかべがあります。がけくずれを防ぐために、じょうぶなかべ

がつくられているのです。下は、ようへきこうといってコンクリートでかためられています。その上はさくがしてあります。さくがあると、石が落ちてきても、止めてくれます。さくは、針金の太さが1cmくらいあり、しっかりしていました。そして、のりわくこうというコンクリートブロックで山のしゃ面をおさえています。これなら、だいじょうぶだ、と思いました。

2年前の9月、私の家のすぐ上で、がけくずれが起きました。あの日のことは、わすれられません。学校から帰ると、国道に、クマぐらいの大きい岩が落ちていたので、びっくりしました。その岩は、道路をこえて、近所の、大藤さんの家の、車庫の前に、

落ちていました。大藤さんの家の人は、とてもこわかったらうな、と思いました。私は、今でもこわいです。もし、土砂くずれが夜に起きていたら、もっとこわかったらうなあ、と思います。おばあさんから話を聞くと、ワイヤーロープがすり切れるような大きな音がして、いきなり、岩が落ちてきたそうです。幸いにも、人や家には被害がありませんでした。

でも、3ヶ月ぐらひは、遠回りして学校に通わなければいけません。今では、防災工事がされて、岩や石が落ちてこないように、岩の割れ目に接着剤をつけ、岩はボルトでとめられ、大きなネットでおおってあります。

その大きな岩が落ちてきたところに、行ってみました。まだ上の方に、でっかい石がありました。落ちてきたら危ないな、とこわかったです。しっかり守ってあるから大丈夫だと思います。でも、安全なようにしてあっても、油断はいけません。

災害のことを、いろいろ調べていると、私立ちの住んでいる山郷では、今から約60年前、昭和18年の7月に、集中豪雨があったことが分かりました。それで、道路や山くずれ、家などが、たくさん流される、という大災害があったそうです。その時の様子を、中原のおじいさんに、くわしく聞きました。

緑の四角は家です。赤い四角が、流された家です。ピンク色の所は、川がはんらんして、道や田んぼが、川になってしまったところ。20けんも、家が流されたそうです。ごろごろと、大きな石が川から流れてきたそうです。これは、山郷小学校の校庭にある石です。これと同じくらいの石が、流されたそうです。たくさん家や、こんな大きな石が流されるんだから、水の力は、すごく強いんだなあと思いました。

屋根がねじれて、家がたおされて、家の

中に石や砂が入ったそうです。家だけでなく、人も流されたそうです。賀露の海まで流された人もある、と聞いて、すごいいきおいだったんだなあ、と思いました。もし、自分が流されたらこわいです。

横瀬川がはんらんして、中原の家が、山木の方まで流されたそうです。山木には、白坪川も流れてきているので、たくさん家が流されました。

山木に行って、昔に家が流されたところを見ました。ここで、昔、大変なことが起きたんだなあと思いました。でも、今は、静かに川が流れていました。

中原の家が流された所にも行きました。今は、流されたところは、ほとんどが田んぼになっていました。あの田んぼに、昔は、家があったんだなあと思いました。流された家は、他の場所に、新しく建てたそうです。中原は、すごくひがいが大きかったんだと分かりました。

それで、ひがいを少なくするために、川を広くしたり、真っ直ぐにしたり、まわりを高くしたりしたそうです。人間は、災害から守るものを作っているけど、自然の力はどれだけ強いかわかりません。

福原の土砂くずれや、中原の大水の話聞いて、山郷の防災について調べたくなり、山郷を歩いてまわりました。まず、尾見に行きました。尾身では、ぼくの家近くを工事しています。コンクリートのかべや、さくがたくさんありました。尾見の家を守るために、何重にもしてありました。とてもじょうぶそうだなあ、と思いました。まだ、ぼくの家近くは工事中なので、早く完成してほしいです。大雨になって、石がごろんごろん落ちてほしくないです。

次に、白坪に行きました。私は、防災の勉強をするうちに、毎日学校に通っている道に、かんばんがあるのを発見しました。そのかんばんには、「土石流 危険溪流」

と書かれています。それで、白坪川の、かんばんのあるところに、みんなを案内しました。みんなは、かんばんを見て、びっくりしていました。それほど、危険な川だったんだなあ、と思いました。これからは、注意しないとイケないなあ、と思いました。

新築している、葉狩さんの家の裏にも、コンクリートかべがありました。葉狩さんの家の裏のかべには、階段もあったので、上まで上りました。上にはすごい大きな石がたくさんありました。落ちてきたらどうしようかと思いました。

山郷の、防災工事の場所や、災害があったところに行きました。山郷には急けいしゃが多いので、たくさん家の裏に、コンクリートかべが作ってあるんだなあ、と思いました。山郷の家には、このかべで守られているんだなあ、と思いました。

調査を元に、山郷の危険な場所マップを作りました。ピンク色のところが、土石流の危険な谷です。山郷には、土石流の危険な谷がたくさんあります。黄色いところが危険な場所です。自分の家が、危険な場所に入っているか調べました。私の家も、危険な場所になっているから、気をつけたいです。

緑の△マークが砂防ダムです。茶色が落石防止かべです。山郷小学校の裏にもりっぱな落石防止かべがあります。茶色に白い線がついているのは、まだ完成していない、落石防止かべです。赤い四角は家が集まっているところです。赤い線はだんそうです。山郷は、たくさんだんそうの場所があるから、大地震のときは、注意しないとイケません。

山郷だけでなく、智頭町の防災マップも作りました。ピンクの線が、土石流で、危険な谷です。黄色の×印が、急けいしゃで、危険な場所です。茶色の印が、地すべりで、危険な場所です。赤色は、家が集まってい

るところです。智頭町は、土石流や、急けいしゃで、危険な場所が、たくさんあることが分かりました。

山郷や智頭町は、危険な場所がいっぱいあることが分かったので、災害を防ぐために、どうすればよいか、鳥取県八頭農林振興局の山本さんに、お話を聞きました。

土砂災害には、土石流と、地すべりと、がけくずれがあります。土石流は、大きな石でも流してしまう力を持っています。がけくずれは、山がいきなりくずれ落ちることです。地すべりは、地面がずり落ちることです。どれも、こわい災害です。早めにひなんすることが一番大切だと言われました。土砂災害のとき、危険なサインを感じて、早くにげたので、だれも死ななかつた例を聞きました。すごいなあと思いました。山から小石が落ちてきたり、地鳴りの音が聞こえたりしたら、危険なサインだそうです。危険なサインを見のがさないようにしたいです。大雨が続いたり、雨がいっぱいふったら気をつけたいです。

家の人とも、災害が起きたらどうするか、話し合いをしました。ラジオつきかい中電とうや、非常食、ひなん用具などを準備しておきます。また、公民館や小学校などのひなん場所も、家の人とたしかめました。いざというときには、あわてず、すばやくひなんしたいです。

いつ災害が起こるか分かりません。ふだんから、災害が起きたら、どうしたらいいのか考えて、準備をしておくことが大切だと思いました。

これで、山郷小学校4年生の発表を終わります。

●「体育館が新しくなったよ！」～地震からのこの1年～

【発表】 溝口町立日光小学校添谷分校（3年生）

本庄直人、森美沙希



ほくたちの学校は溝口町立日光小学校の添谷分校です。公社は今から65年ほど前に建てられた、鳥取県で一番古い木造校舎です。そしてそのとなりにはこの夏に一番新しい木造の体育館が建ちました。

8月8日、わたしたちの添谷分校に本稿の友だちや地域の人たちがたくさん来てくれました。「分校体育館完成を祝う会」をするためです。会の様子をビデオで紹介します。見てください。

（ビデオ上映）

ちょうど1年前に地震が起こり、ひどい揺れのために壁がおちたり柱がゆがんだりしたので、分校の校舎や体育館は使えなくなりました。とても怖い思いをしましたが、ひとりもけがをする人がなくてよかったです。そしてほくたちは本校で3月まで生活しました。そのときは「早く分校がなおるといいなとほくは思っていました。わたしは「いつ学校に帰れるんだろう」と思って

いました。

分校が元通り使えるようになったり新しい体育館ができたりにするようになったのは、ぼくたちの住んでいる添谷や福永の人たちが話し合っ、溝口町にお願いされたからだ聞いています。

そして、春休みには前の体育館が取り壊しになりました。分校に通っていたお姉さんたちも見に来ていました。

1ヶ月後の4月25日には、工事の安全を願ってお祭りがひらかれました。わたしたちも参加して体育館が無事たちますように、とお願いしました。ここでまた、ビデオを見てください。

(ビデオ上映)

そして、工事が始まりました。

6月のはじめには棟上もあり、前と同じように木造の体育館が少しずつできあがっていきました。

わたしたちは、総合的な学習で分校の昔調べをしました。体育館が新しくなることを分校の卒業生にお知らせして、昔の分校の様子や思い出などをインタビューやアンケートをして教えてもらいました。

ぼくのおじいちゃんやおばあちゃんが小学生だったときに、ちょうど今の校舎ができたということや、昔は分校に通っていた子どもの数がたくさんいて、一番おおいときは77人だったと聞いて、びっくりしました。「今は子どもの数が少なくてかわいそうだね。でも、少なくともいっしょうけんめい勉強したり運動を練習したりしてがんばってほしい。」と言われて、ぼくはがんばろうと思いました。

私は、30年ほど前に、添谷分校が日光小学校から溝口小学校の分校になっていたことを知って、驚きました。分光に昔の写真が残っていて、見ていたらとても楽しそう

でした。いろいろな人に出会って、昔の話を聞かせてもらったり、「これからがんばってください」都いってもらったりして、うれしかったです。それと福永や添谷からたくさん分校に通っていたことを知って、よかったです。

これから、ぼくたちやつぎにはいってくる友だちや地域 みんなで新しい体育館で遊んだり運動したりして、大切に使いたいと思います。

これで終わります。

●「ボランティア活動を通じて学んだこと」

【発表】日野町立日野中学校（3年生）

上田紀穂



忘れもしない1年前の今日、午後1時30分ごろ、鳥取県西部地区を中心に震度6強の地震が起きました。私たちの住んでいる日野町は、その中でも大きな揺れを観測しました。

私立ち日野町民は、不安な生活を送るようになりました。私は、震災から3日間家族と共に避難生活を開発センターでおくりました。

そこには、地震の不安におびえる近所の人たちがたくさん詰めかけていました。私

の家は、幸いにも大きな被害を受けませんでした。少しずつ余震もおさまって来ていたので、何をすることもなく、近くの友達と遊んでいました。

避難所になっている「開発センター」前で友達と話していたところ、保育園の先生が、「ボランティアしてみない？」と声をかけてこられました。「ボランティア？私が？・・・」と思いました。

時間もあるし、ボランティア活動を知るよい機会だと思ってやってみることに決め

ました。私の仲のよい友達も一緒です。

10月10日、同じクラスの小林紀代花さんと「開発センター」に行き、保育所の先生に何を手伝えばいいのか尋ねました。そして、開発センターの2階に食糧を運ぶのを手伝いました。そのあと、今度は役場の人に何かお手伝いができることはないかとたずねましたが、10時まではないとのこと。どこかで私たちができることはないかと考えました。

中学校の体育館に避難している方が200名くらいあるということを出して、中学校に行けば私たちにできることがあるかもしれないと考え行くことにしました。

職員室に行き「私たちにできることはないですか？」と聞くと「役場に大切な書類を持っていってくれる？」と頼まれました。私と小林さんとで自転車で役場に向かいました。道路は路肩が崩れたり、落石があったりで地震のものすごさを感じさせました。

普段は、見慣れている日野川の流れも気のせいか怒っているようでした。気が弱きなっている人を飲み込んでしまいそうな気がしました。

無事に書類を渡し、再び中学校へ帰りました。友達と相談して、2階のトイレと体育館のトイレを掃除することにしました。体育館のトイレは、地下で配水管が地震のためグチャグチャになり汚物がきれいに流れず、詰まっていました。正直言っていやでした。におい・散らかったティッシュペーパー、かたづけるのが大変でした。

でも、私たちが掃除をしていると、避難している人に「ありがとう」と温かい励ましの言葉をかけてもらい、人に喜んでもらえるのって何か気持ちいいな—と思いました。

その日の夜、同じクラスのさこ川やすかさんから電話があり、ボランティアと一緒にやることにしました。翌日、小林さん・

さこ川さん・私の3人で中学校に行き、昨日と同じようにトイレ掃除や廊下掃除を本当に一生懸命しました。私は、ボランティアは疲れることも多いけど、しているうちに楽しくなり、いい気持ちになりました。普段の生活では、学校の掃除なんて面倒くさくて怠けてしまう事もあります。

そんな私が、今、ボランティアでがんばっている、掃除をしていることを思うと変な感じがします。人のために何かをすることでこんなに自分が変わるもんかなと思いました。掃除を終えて、職員室に行くと、河原中学校から寄せ書きが届いていました。

「大変だと思うけど、がんばって！」「くじけるな！」。私はうれしくて、うれしくて一つ一つ激励の言葉をかみしめながら読みました。言葉ではうまく表現できないうれしさと同時に、人間の温かさを感じました。

日野中のテニス部と交流のある兵庫県上郡中学校、岡山県瀬戸中学校・小学校、九州 明豊中学校からは、たくさんの義援金、九州のある中学校1年生から救援物資、たくさんの元気をもらいました。

避難している方が寝泊りをしておられる体育館が、掃除されてないことに気づきました。自衛隊の人に掃除の許可を得てから、体育館の雑巾掛けをしました。体育館の雑巾掛けは、長くてとても大変でした。私たちが雑巾掛けをしていると、県外のボランティアの人たちが手伝ってくれました。おばあさん達が「いつもありがとうね」と言ってくださいました。私も笑顔で「はい」と大きな声で答えました。その後も、何かが私の背中を押して、雑巾掛けを夢中になってやりました。

ボランティア4日目、いつも通りトイレ掃除をして終わりました。私は、地震を通じてつらい思いもしたけど、ボランティアをする機会に出会い、多くの人とふれあい、

とても素晴らしい体験ができました。

私にできることがあれば、今回のことを生かして、進んで何かをしたいと思っています。しなければ、いえ、したいと思っています。

復興モニュメント制作発表

●「復興への思いを込めて」

【発表】 鳥取県立米子高等学校総合学科（3年生）

門田奈緒美（デザイン）、小谷壮之（制作者代表）



○門田奈緒美

私は、この西部大地震の復興の象徴モニュメントをデザインした門田です。3年生のビジュアルデザインの選択科目で、地震のモニュメントのデザインを考える課題が出て、私は自信の起きた日のことを思い出しました。

あの日10月6日は、ちょうど陶芸の時間で、突然の揺れに全員建物の外へ避難しました。さっき私がいた教室からは、作品の割れる音、物の落ちる音が響き、私は校庭

集合の放送があるまでずっと怖くて不安でした。早く地震がおさまって欲しいとただそれだけを思っていました。

その後テレビなどで大きな被害を受けた地域の情報も知り、あの不安な気持ちが蘇る中、1日も早く復興して欲しい、復興する力が欲しいと強く心に思いました。

そして、今回その願いを込めた二つの目をデザインしました。一つは、まっすぐ前を見つめ現実を見つめる目、もう一つは、上を向き明日を見つめる目です。現実を見つめる目は、目の前の出来事を冷静に受け

止めようとする心を表し、明日を見つめる目は、1日でも早く復興の日を迎えられるようにと願いながら、希望に満ちる明日を見つめる前向きな心を表しました。

このデザインで苦労した点は、二つあります。一つは、二つの顔のバランスです。先生の協力により何度も位置を調整し、やっと今の形が出来上がりました。二つ目は、このモニュメントの名前です。放課後、先生と制作スタッフとともに何度も話し合いました。なかなかこの作品に合う名前が思い浮かばず、何日間も続いた話し合いの末、「見つめる目」をキーワードに「まなざし」に決定しました。

希望を捨てず、皆と協力し合って、復興の日を1日でも早く迎えられるようにその日が来るまで、この「まなざし」は、現実に立ち向かう人々を優しく見守り、来るべき希望の日を今か今か願っているのです。

○小谷壮之

復興モニュメント制作を担当した米子高校の小谷壮之です。

制作した6人を代表して説明させていただきます。私たち6人は、3年間陶芸を選択しました。昨年10月6日、西部大地震の時は、第25回全国高等学校総合文化祭工芸部門に出品する作品を制作していました。

出品作品は、ちょうど乾燥途中だったのもろくもすべての作品が壊れてしまいました。そんな体験をした私たちなので、今回のこの復興モニュメント制作には特に強い思い入れを持って制作にあたりました。

まず最初にモニュメントの型枠を作りました。ここでは、型が固定されるよう枠をしっかりと打ち付けることに注意を払いました。次に型枠に粘土を敷き詰め、足でしっかりと踏みつけながら粘土に空気が入らな

いよう力を込めて練り込みます。それは、粘土に空気が入ると、焼き上がるときひび割れるからです。次に練り込んだ粘土をさらに手でたたき空気を追い出します。そして表面を平らにして少し乾燥させます。

次に粘土の上にモニュメントの原形を描き、剣先ナイフで型を切り抜いていきます。ここでは、原形どおり切り抜くように細心の注意が必要です。そして切り終えたらまわりの粘土を取り除きます。次に細かいところを削り形を整えていきます。

こうして形のできた予備を含めた6枚のモニュメントを窯に入れていきます。ここで運ぶ人は、大変緊張したのではないのでしょうか。もし落とすようなことがあればまた最初から作らなければなりません。僕も運びましたが非常に緊張しました。そして、生徒全員の力を合わせ6枚すべて無事に窯に入れることができました。8時間の間、窯に入れ素焼きします。

次に焼き終わったときにきれいな色が付くように釉薬を塗りました。ここでも窯から出すときは慎重に作業をしなければなりません。そして、それ以上に慎重に行わなければならないのが薬を塗る作業です。一つ間違えれば、思った色に仕上げることができませんので慎重に丁寧にするように心がけました。

いよいよ最後の行程、本焼きです。ここでも作品にひびが入る可能性があるため、慎重に本焼きにかかりました。

以上のような行程をすべてクリアして今日ここにありますが完成しました。

この作品は、地震の悲惨な現実を見つめ、それを乗り越えていく県民の希望のまなざしを表したものです。題名は、「まなざし」、サブタイトルとして「あすへの希望」としました。見てくださった一人でも多くの方が、地震の悲惨さとそれを乗り越えていく希望を感じ取っていただければとてもうれ

しく思います。

そして、米子高校陶芸選択者としてこのようなモニュメントを作れたことを誇りに思います。この作品を作るに当たって御協力いただいた関係機関の皆様、僕たちに指導をしていただきました安藤先生、白川先生に感謝したいと思います。ありがとうございました。



復興宣言

●「やさしい心をありがとう」

日野町立根雨小学校（3年生）
中原早紀、中原美咲、袴田珠理
鳥取県知事 片山善博



「ガタガタッ」「ドドー」きゅうにドアがゆれだしました。そのとき、そうじ時間でした。わたしは、びっくりしてぞうきんをなげて、先生につくえの下に入りました。みんなこわくてだまっていました。

それから、校ていにひなんし、山がくずれるのも見えました。犬のチロやかぞくのことをしんぱいでないてしまいました。六年生や五年生が、かたをたたいて、「だいじょうぶだけん」「だいじょうぶだけん」

と、はげましてくれました。

家に帰ってみると、どうろはボコボコ、どこの家もメチャクチャでした。みんなで少しずつかたづけていきました。私は、元気村の人たちといっしょにおみそ汁を作りました。いこいの家では、ボランティアの人とトランプをしたりおり紙で、いっしょに遊んでもらったりしました。

町の人やボランティアの人にしていただ

いたことは、わすれられません。

今では、ひびわれた道もよくなり、道を広くする工事をしています。学校のプールも体育館もきれいになりました。それから、となりの家が新しくたつようで、「コンコン」「トントン」とにぎやかな音がきこえてきます。その音を聞くと元気がでてきます。私たちは、たくさんのやさしい心にはげまされて、たくさんの元気をもらいました。こんどは、わたしたちがたくさんの人にかえしていきたいと思っています。

その気持ちを込めて宣言します。

元気いっぱい根雨小学校！

元気いっぱい鳥取県！

みんなで力を合わせてがんばろう！



復興モニュメント除幕式

米子コンベンションセンター1階 エントランスロビー

○あいさつ 門田奈緒美



○除幕式



復興モニュメントについて

- 1 題名 まなざし ～あすへの希望～
- 2 趣旨 震災という現実を直視し、皆が力を合わせ、希望を見つめる
まなざしを表したもの
- 3 制作 鳥取県立米子高等学校 総合学科
デザイン：門田奈緒美（3年生）
制作：小谷壮之、判澤拓人、柏木麗子、前田美香、泉 奈央
門田奈緒美、高梨えりか、寺本 愛、富永知穂（3年生）
- 4 概要 材質 本体：陶器 台座：木材（集成材）
大きさ 本体：大 高さ800×幅700 ×厚さ60mm 1枚
中 高さ650×幅600 ×厚さ60mm 2枚
小 高さ500×幅400 ×厚さ60mm 1枚
台座：天板 高さ100×幅1,500×奥行1,000mm
本体 高さ600×幅1,000×奥行 500mm
- 5 設置場所 米子コンベンションセンター 1階エントランスロビー
- 6 銘 板

「鳥取県西部地震」復興モニュメント

平成12年10月6日、午後1時30分、鳥取県西部を中心に大きな地震が発生し、最大震度6強を境港市、日野町で記録しました。死者こそありませんでしたが、人的、物的被害は西部地域全域に及ぶ大規模なものとなりました。現在、被災された方々をはじめ市町村、県が一丸となった復興活動が、たくましく進みつつあります。

ここに、更なる復興への願いを込め、モニュメントを設置するものです。

平成13年10月6日 鳥取県知事 片山 善博

「鳥取県西部地震」を考える鳥取県民大会において

- 題名 まなざし ～あすへの希望～
震災という現実を直視し、皆が力を合わせ、希望を見つめるまなざしを表した
もの
制作 鳥取県立米子高等学校 総合学科

・材質：陶器 ・台座の天板上に設置 ・縦300mm×横400mm